

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
専門学校 ちば愛犬動物 フラワー学園	平成11年3月29日	西村 壽	〒260-0021 千葉県千葉市中央区新宿2-14-13 (電話) 043-242-0511																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人 中村学園	昭和41年8月15日	中村 洋子	〒260-0021 千葉県千葉市中央区新宿2-14-3 (電話) 043-242-0467																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
文化・教養	文化・教養専門課程	植物管理科フラワーデザインコース	平成28年文部科学省告示 第49号																				
学科の目的	本校は、教育基本法および学校教育法に基づき、動物の飼育看護及び植物の育成に関する知識、技能を修得させると共に、動植物の愛護の精神に深い理解を持つ、生命を慈しむ人間教育を行い、広く社会に貢献させ、国際感覚に富む教養を備えた社会人を育成し、社会、業界に寄与することを目的とする。																						
認定年月日	平成29年2月28日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2年	昼間	1829時間	298時間	553時間	978時間	0	0																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
40人	17人	0人	24人の内数1人	77人の内数7人	101人の内数8人																		
学期制度	■前期:4月1日~9月30日 ■後期:10月1日~3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 A(優)、B(良)、C(可)、R(認定)、F(不認定)とし、定期試験、出席率、授業態度等を総合的に評価する。																		
長期休み	■夏季:8月1日~8月31日 ■冬季:12月26日~1月5日 ■春季:3月21日~4月10日		卒業・進級条件		①その年度の履修単位を取得すること。 ②各学年昼間部は年間800時間以上、夜間部は年間450時間以上出席すること。 ③卒業判定に関しては成績並びに出席状況を卒業判定会議で確認し、卒業要件を満たした者を卒業と認める。																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任による学生個人面談、カウンセラーによるカウンセリング、入学前保護者会や年度末保護者会の実施。		課外活動		■課外活動の種類 ・小学生対象お仕事体験のイベントスタッフ ・宿泊研修、その他ボランティア活動等																		
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) フラワーショップ、その他フラワー関係		主な学修成果 (資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																		
	■就職指導内容 学科専任の就職指導担当を配置し、個々のカウンセリングを行う。就職ガイドやビジネストレーニングのビジネス教養科目、年数回の就職セミナーにて就職指導を行っている。				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JIFDFフローラルデザイナー資格</td> <td>③</td> <td>14人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	JIFDFフローラルデザイナー資格	③	14人	7人								
	資格・検定名	種			受験者数	合格者数																	
JIFDFフローラルデザイナー資格	③	14人	7人																				
■卒業生数: 14人 ■就職希望者数: 11人 ■就職者数: 10人 ■就職率: 90.9% ■卒業者に占める就職者の割合: 71.4%		※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																					
■その他 ・進学者数: 0人 ・非就職: 3人		■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 ・特になし																					
令和3年度卒業生に関する 令和4年5月1日時点の情報																							
中途退学の 現状	■中途退学者 1名 令和3年4月1日時点において、在学者25名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者24名(令和4年3月31日卒業生を含む)		■中退率 4.0%		■中途退学の主な理由 ・進路変更 ・経済的に困難である為 ・身体的または精神的な理由により学園生活が困難である為																		
■中退防止・中退者支援のための取組 ・担任制による学生管理 ・カウンセラーの設置 ・保護者との連携(保護者説明会実施。出席状況、成績表通知。) ・学生診断資料、調査アンケートを活用し、不適応者の早期発見・進路変更者との担任面談(進学・就職情報の提供等)																							
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ・特待生制度:年間成績・出席率など1年間の総合的な成績結果、学習意欲や貢献度などを元に判定し授業料の一部を減免。 ・ひとり暮らし応援制度:親元を離れてひとり暮らしをする学生に対し、2年進級時に家賃の一部として補助金を支給。																						
■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																							
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																						
当該学科の ホームページ URL	<a href="http://www.aik.ac.jp/">http://www.aik.ac.jp/</a>																						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ・教育課程編成委員会を年度に2回開催し、外部企業委員と次年度のカリキュラム改善等の意見交換をする。
- ・各コースに特化した専門部会を年2回開催し、企業からの派遣講師を含めてカリキュラムに関する意見交換をする。
- ・ペット美容&ショップ、動物病院、飼育・訓練、乗馬、フラワービジネス等、動物及び植物関連の業界の最新動向を調査分析し、各業界の第一線で即戦力として通用する人材育成プランや教育方法を研究する。
- ・現行カリキュラムの評価を行い、現代社会に適合した授業科目の改善案や新規導入案を提言する。
- ・業界に関する授業を導入し、動植物企業より技術者、人事担当者等を招いて授業を展開する。
- ・動植物企業と提携した外部イベントとインターンシップ活動を連携させ、幅広い視野と思考を身に付ける環境を設ける。
- ・リアル実習と称し、各コースの専門性と深く関連する事業所にて実践的な実習授業を行う。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

委員会は校長又は副校長により召集され、教科担当の責任者から現行カリキュラムの説明と次年度へ向けての改善提案に対して、企業等の委員からの助言や修正意見等の集約を図る。それらの意見を参考にマネージャー会議で審議し、職員会議で説明して、校長又は副校長が次年度カリキュラム等改善策として決定する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

2021年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
田中 信夫	株式会社はこねフローリスト 執行役員	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	③
安部 喜方	株式会社花門フラワーゲート 専務取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	③
鈴木 正人	有限会社大黒屋園芸 取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	③
松島 義幸	日本フローラルマーケティング協会 専務理事	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	①
新山 和子	専門学校 ちば愛犬動物フラワー学園 副本部長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	
津島 幸織	専門学校 ちば愛犬動物フラワー学園 フLOWERデザインチームリーダー	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年度内に2回開催(原則、毎年9月・3月)

(開催日時)

第1回 令和4年9月15日 10:00～12:00

第2回 令和5年3月8日 10:00～12:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・フラワー装飾技能士についての導入についての必要性を今後も引き続き検討する。

・現在職場では事務管理業務に於いてのスキルの未熟さが感じられる。今後、PC等ビジネススキルを向上させる授業を増やすこととした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習、演習等において実践的かつ専門的な能力を育成するため、産学連携においては最新の理論及び技術を積極的に導入している企業との連携を基本方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

講師業務委託書と契約時間割に基づいて、専門分野の実習授業等を企業より派遣の講師が担当する。実習授業での技術試験や筆記試験、平常点を総合して各科目ごとにA(優)、B(良)、C(可)、F(不認定)の評価を実施する。週単位での授業内容確認と、反省における打ち合わせを担当教員、講師間で行う。また、年に2度、講師会議を開催し各専門分野の分科会を実施し授業運営方法、内容について共有、議論する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な3科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
JIFD実習	1年生では、デザインの基本的な部分を重点的に、技術から理論に至るところまで学習していく。さらにフローリストとしての気遣いや、接客、サービス、など、社会において必要とされる人間性的な部分も学ぶ。	一般社団法人JIFD日本フローラルデザイナー協会

花色彩学	フラワーカラー検定テキストに添って花の色、色彩についての知識を深め、花々の魅力をより引き出せること。色彩、配色の必要性を学ぶ。	日本フラワーデコレーター協会
フラワー装飾技能士対策	国家資格である3級フラワー装飾技能試験の内容を理解する。リボンワーク、花束、アレンジメント、ブートニアを決められた時間内で作成できるよう指導。また、花の歴史や知識、道具や資材の取扱いについて等の筆記試験問題の指導。その中で、今後の就職先でも通用する細かい技術やテクニックを指導し、国家試験3級試験に合格できる技術や知識を身につける。	一般社団法人JIFD日本フローラルデザイナー協会

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針  
 ・学校研修については当校の教育理念である「動植物を愛し心豊かな社会づくりに貢献できる人間の育成」を根本とし、パートナーアニマルの健全な生活環境、万全な健康管理、本来の美しさとしっかりとした躰を確立する為、また育成管理している植物の自然美を最大限に引き出す為、年度初頭に各チームが年間研修計画を立て、技術的な内部研修や専門業界団体が主催する外部セミナー等の受講を推進し、更なる技術と指導力の向上を図る。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

○ JFMA フラワービジネス講座

対象: フラワーデザインチーム ・内容: フラワー関連の仕事基本を学ぶ。 実施: 2022年5月31日/6月7日  
 主催団体: 日本フローラルマーケティング協会

② 指導力の修得・向上のための研修等

○ LIFO プログラム ライセンス取得講座

対象: 就職担当職員 ・内容: LIFOプログラム習得 ・実施: 2022年2月28日/3月1日  
 主催団体: 株式会社ビーコンラーニングサービス

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

○ フラワーデザイン研修

対象: フラワーデザインチーム ・内容: フラワーデザインの基本パターンを学ぶ ・予定: 2022年9月14日  
 主催団体: JIFD日本フローラル協会

○ 大田市場見学研修

対象: フラワーデザインチーム ・内容: 市場の見学及び花の流通について学ぶ。 予定: 2022年9月9日  
 主催団体: 大田花卉

② 指導力の修得・向上のための研修等

○ 新入職員研修

対象: 職員 ・内容: 学生指導 ・予定: 2022年4月1日  
 主催団体: 心理カウンセラー砂山

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

・学校関係者評価委員を年度に2回開催し、企業人、学識経験者、卒業生等からの第三者視点より学校運営の評価を行い、客観性、透明性の高い健全な学校運営を継続することを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の理念・目的・育成人材像</li> <li>・学校における職業教育の特色</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想</li> <li>・学校理念・目的・育成人材像・特色・将来構想等の学生・保護者等への周知</li> <li>・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けての方向性</li> </ul>

(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針の策定</li> <li>・運営方針に沿った事業計画の策定</li> <li>・運営組織や意思決定機能の明確化、有効性</li> <li>・人事、給与に関する規程等の整備</li> <li>・教務、財務等の組織整備等の意思決定システムの整備</li> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制の整備</li> <li>・教育活動等に関する情報公開</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等の策定</li> <li>・教育理念、育成人材像の業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の明確な確保</li> <li>・学科等の体系的なカリキュラムの編成</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)の体系的な位置づけ</li> <li>・授業評価の実施・評価体制</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準の明確化</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけ</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員の確保</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員の確保をする等のマネジメント</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の育成等資質向上のための取り組み</li> <li>・職員能力開発のための研修等</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上に向けた取り組み</li> <li>・資格取得率向上に向けた取り組み</li> <li>・退学率低減に向けた取り組み</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価の把握</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握した学校の教育活動の改善への活用</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制の整備</li> <li>・学生相談に関する体制の整備</li> <li>・学生に対する経済的な支援体制の整備</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制</li> <li>・課外活動に対する支援体制の整備</li> <li>・学生の生活環境への支援</li> <li>・保護者との適切な連携</li> <li>・卒業生への支援体制</li> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組み</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育上の必要性に十分対応するための施設・設備の整備</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等についての十分な体制</li> <li>・防災に対する体制の整備</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な学生の募集活動</li> <li>・学生募集活動における教育成果の正確な伝達</li> <li>・学納金の妥当性</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的な学校の財務基盤の安定性</li> <li>・予算・収支計画の有効性、妥当性</li> <li>・財務についての適正な会計監査</li> <li>・財務情報公開の体制の整備</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善</li> <li>・自己評価結果の公開</li> </ul>

(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献、地域貢献</li> <li>・学生のボランティア活動の奨励、支援</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等の積極的な実施</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受け入れ・派遣についての戦略</li> <li>・留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等における適切な手続き等</li> <li>・留学生の学修・生活指導等についての学内における体制の整備</li> <li>・学修成果が国内外で評価される取り組み</li> </ul>

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

- ・外部委員より指摘のあった3-3について動物看護科のみで作成されているカリキュラムツリーを、動物管理科、植物管理科に於いても作成することを検討。
- ・外部委員より指摘のあった卒業生の支援体制に関して卒業生の動向をより多く確認できる体制を強化し、就職先の企業と連携を図っていくこととした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成31年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
安部 喜方	株式会社花門フラワーゲート 専務取締役	令和4年4月1日～令和5年3月31日(2年間)	企業等委員
高橋 岩雄	公益社団法人千葉県獣医師会 顧問	令和4年4月1日～令和5年3月31日(2年間)	企業等委員
小林 正希	株式会社 COREZON	令和4年4月1日～令和5年3月31日(2年間)	企業等委員
倉本 佳郎	株式会社バイエフエム 東京営業部	令和4年4月1日～令和5年3月31日(2年間)	学校関連企業
長谷川 大	株式会社ニッセイアド	令和4年4月1日～令和5年3月31日(2年間)	学校関連企業
黒川 智洋	株式会社スワット 代表	令和4年4月1日～令和5年3月31日(2年間)	学校関連企業
富田 祥史	卒業生代表	令和4年4月1日～令和5年3月31日(2年間)	卒業生
船倉 千代子	近隣住民代表	令和4年4月1日～令和5年3月31日(2年間)	近隣住民

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) 公表年月日 2022年7月1日

URL: <http://www.aik.ac.jp/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ・定期的な企業訪問を実施して学校の現状報告、新設コースや新規授業等の情報提供をすると共に、学校概要と就職関連情報が一体となった刊行物を動植物企業に配布し学校運営の現状を把握していただく。
- ・ホームページにて各情報の公開を行う。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学園の経営方針、学校の教育目標、学校の歩み、所在地、連絡先
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、学校行事、学生数、退学率
(3) 教職員	教職員数、講師数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	進路指導、卒業後の進路、主要検定合格率
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備、SAM活動(授業外の学生活動)
(6) 学生の生活支援	遠隔者支援、アパート斡旋、危機管理
(7) 学生納付金・修学支援	納付金に関すること、就学支援金、授業料免除、奨学金
(8) 学校の財務	学園の財務状況
(9) 学校評価	自己評価の結果、学校関係者評価の結果、改善方策
(10) 国際連携の状況	留学生受け入れ
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.aik.ac.jp/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 植物管理科フラワーデザインコース) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			花色彩学	11月下旬に実施されるFDA主催のフラワーカラー検定の資格試験受験のための対策をしていく。検定テキストに添って花の色、色彩についての知識を深め、花々の魅力をより引き出していく。色彩・配色の必要性を学ぶ。	1通	56	3	○			○			○	○
○			ブライダルフラワー学	ウェディングフラワーの由来について/結婚式で使用される花の種類や花の意味、六曜、祝日など一般知識を学ぶ。	1後	28	1	○			○			○	
○			フラワー商品知識	・植物の育成は、その時々環境に応じて育成方法を変化対応させていかなければ十分ではない。状況変化に応じた正しい知識&技術手法を身につけ、活用できるレベルに引き上げる。 ・季節、事象に応じた植物毎の育成方法の基礎を身につける。 ・即戦力の人材育成を図る。	2通	56	3	○			○			○	
○			フラワー管理	ガーデン栽培実習の内容をもとに、1号館の花壇管理を中心に植物の管理方法を学ぶ。	1前	15	1			○	○		○		
○			フラワーショップビジネス	他にはない実践的なフラワーショップをオープンさせ、2年生がスムーズに動けるような土台ベースや、基礎知識を得て、翌年のシミュレーションをイメージしながら進行してもらおう。	1通	220	14	○			○			○	
○			フラワーショップビジネス2	他にはない実践的なフラワーショップをオープンさせ、主任以上のノウハウを、知識実力共に1年間で身につけさせる。	2通	108	7	○			○			○	
○			植物造形理論	ドイツのフローリスト植物造形理論を、作品制作をしながら学習します。 植物造形理論の2つの要点は、①私たちの材料である「植物」について芸術的な観点から分析をしてその特性を知り、お客様の要望や作品のテーマに合わせたデザイン、組み合わせを選択できる。②美しいもの、調和のとれたものを作るための長い歴史の中で編み出された造形学、規則やルール、その方法を知ることです。造形理論を知ることによって、自分の制作した作品を客観的に理解する<テーマへの適応、構成や材料の選択の意味など>ことが可能となります。 長柄の自然の材料を使用し、本来の植物材料による造形に携わることは、将来のフローリストとしての仕事、作品制作、フローリストとしての意識に大きな影響を与えるものと思います。	2後	168	11	○			○			○	



○		フラワー装飾 技能士対策	国家資格である3級フラワー装飾技能試験の内容を理解する。リボンワーク、花束、アレンジメント、ブートニアを決められた時間内で作成できるよう指導。また、花の歴史や知識、道具や資材の取扱いについて等の筆記試験問題の指導。その中で、今後の就職先でも通用する細かい技術やテクニックを指導し、国家試験3級試験に合格できる技術や知識を身につける。	2 後	42	2			○	○			○	○
○		JIFD実習	1年生では、デザインの基本的な部分を重点的に、技術から理論に至るところまで学習していく。さらにフローリストとしての気遣いや、接客、サービス、など、社会において必要とされる人間性的な部分も学ぶ。	1 通	168	5			○	○			○	○
○		JIFD実習2	2年生では、デザインについて自由かつ発展的な表現方法を学ぶ。デザインの基礎知識を踏まえながら、総合的にフラワーデザインの幅広い知識を習得する。将来関連業種への就職に際し、自信や意欲を持ち社会に通用する学生の育成に努める。	2 通	162	5			○	○			○	○
○		フラワークラ フト	生花、プリザーブドフラワー、ドライフラワーのそれぞれの特徴を理解し、作品制作を通じて、必要に応じたワイヤリング、テーピングの方法など、その他基礎技術を習得する。	1 前	42	1			○	○			○	
○		アーティフィ シヤルフラ ワー	アーティフィシヤルフラワーを扱う上で、歴史、製造工程、特長などを学び、知識を深める。作品を制作しながら、アーティフィシヤルフラワーのメリットを最大限に生かした、生花とは異なる様々な技法を学び、繰り返し反復しながら技術を習得する。	1 後	42	1			○	○			○	
○		フューネラル 専科	フューネラル事業は今や花業界では大きな産業となる部門であり、そこに対する技術は非常に重要な状況にある。そのような中で、基本となる知識、現状を踏まえ、必要とされるデザインや考え方をしっかりと身につけていく。特にライン的デザイン（造形的デザイン）を中心としての確立に努め自信の持てるデザイナー育成を目指す。	2 後	42	1			○	○			○	○
○		ブライダル専 科	ウェディング全般に関する知識と実戦を学ぶ。豊富な花の知識、コーディネート技術の取得に留まらず、ウェディングビジネスに必須の項目を基礎知識として学び、業界における即戦力となる人材育成を目標とする。	2 前	84	2			○	○			○	○
○		フローリスト 実践	グローバルな観点に立ち、社会における花の仕事の意味や役割を学ぶ。仕入れ、売値設定、ロス率といった具体的な数字から見る花屋の現状とビジネスを考察。店舗におけるレイアウト、接客マナーを含めた講義も織り込み、即戦力としての人材育成を図る。	2 後	42	1			○	○			○	○

○		ハーブ&ローズ	・ハーブの理論と実践を学習する。ハーブの効能・効用・利用法など ・バラの授業では、美しい花を楽しむ為の栽培方法の基本の知識とテクニック	2前	84	2				○	○	○		
○		ガーデン栽培実習	「花キ」種類、栽培方法、播種と育苗、病虫害対策など花キ全般を学習する	1通	162	5				○	○	○		
○		業界インターンシップ	将来、植物業界に従事し活躍する為に植物業界現場での実務を体験する。実体験によって自己の力と意欲を自覚し、就職活動に役立てることを目的とする。	2後	150	5				○	○	○	○	
○		パソコン	情報処理に関する基礎的な内容を取り扱う。今まで漠然と判断されてきたコンピュータやインターネットに関する基礎知識とスキルを総合的に学習する。授業はネット利用のマナーの習得・情報検索・Word文書作成・Excel表計算を講義と演習を組み合わせ実施する。	1前	42	2			○	○			○	
○		ビジネストレニング	ビジネスで必要なマナー全般を学ぶ。①職場で仕事をする上で良い人間関係を築くコミュニケーション②場に合った敬語の使い方③お客様への感じの良い対応④気持ちを伝えるお礼の手紙⑤仕事内容を伝える文書⑥仕事を手際よく進める為に必要なスキルをテキストとワークの実践から、実際の仕事に役立つように学ぶ。	1後	17	1	○				○			○
○		就職ガイド2	動植物業界で求められる人材の育成。今後始まる就職活動に向けての必要な知識を身につけ、キャリアプランの構築を行う	2前	17	1	○				○			○
○		自己理解&就職ガイド	個人が協調しあう「社会」に居るために、まずは自分自身を知る自己理解が重要です。この自己理解がしっかりできていれば、自身の進むべき方向性が把握でき、他者との協調がよりスムーズになります。そこでこの科目では、1年生前期で自己理解を深めます。また、動植物業界で求められる人材の育成。今後始まる就職活動に向けての必要な知識を身につけ、キャリアプランの構築を行う。	1通	27	1	○				○			○
○		コミュニケーション	コミュニケーションスキルを高めることを目的とし、傾聴や共感の手法について学ぶ。	1通・2通	55	2	○				○			○
合計				23科目	1829単位時間( 77 単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
「卒業要件」 ①その年度の履修単位を取得すること。 ②1年次・2年次、各800時間以上、卒業時に計1700時間以上出席をしていること。 「履修方法」 全科目必修 (留意事項)		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。